岩手県政150周年記念（R4～R8）

地域に未来に多様なアーチを

Arch

岩手県立大学・広報誌［アーチ］

2024.03
85
Spring

学びの歴史をつないで
未来の後輩たちへ！

25th ANNIVERSARY
開学25周年
巻頭特集
25th Anniversary

岩手県立大学
Iwate Prefectural University

OB/OG Interview
NEXT INTERSECTION

ソフトウェア×対話

株式会社システムベース
医療システム部医療サポートグループ
長峯 和樹 さん
2015年 ソフトウェア情報学部卒業

システムを「つくる」と「つかう」の橋渡しが仕事
学生時代に培った知識と対話力が生かされています

工業高校で学んだ情報処理やプログラミングを「もっと深めたい」と岩手県立大学ソフトウェア情報学部に入学しました。学年混成の演習科目である「プロジェクト演習」などを通じて学年を超えた交流ができるのがこの学部の特徴。多様な考えに触れることで視野が広がりましたし、いろいろな立場の人と対話する力は、大学の4年間でだいぶ身についたと思っています。

卒業後は小売、製造、教育など幅広い分野の情報システムを開発している「システムベース」に就職。私は医療機関における電子カルテや会計システムの導入、運用のサポートを担当しています。医療機関にはさまざまな世代、職種の人が働いていて、ITのスキルもそれぞれ。どんなに高性能なシステムでも、現場が活用できなければ意味がありません。その「すり合わせ」をするのが私の役割で、ITと医療両方の知識、そして「聴く・伝える」対話力が求められます。

システムをつくる側とつかう側、その間を取り持つのは大変ですが、一方で成果や反応を肌で感じることができるのは特権。パソコンが苦手だったお客様に「もう紙（アナログ）には戻れないね」と言ってもらえたときは、最高にやりがいを感じました。テクノロジーが日々進化しても、それを使いこなすのは「人」。そのことを忘れず、知識やスキルのアップデートはもちろん、対話力も磨き続けていきたいです。

趣味は、中学生のときから続けているソフトテニス。幅広い世代と交流する「コミュニケーション力」は、そこでも培われてきたと話します。「つくる側」と「つかう側」の橋渡しが長峯さんの役割。社内のシステム担当者とのコミュニケーションも大切にしています。

地域に 未来に 多様なアーチを
岩手県立大学
Iwate Prefectural University

看護学部 | 社会福祉学部 | ソフトウェア情報学部 | 総合政策学部 | 盛岡短期大学部 | 宮古短期大学部 |
看護学研究科 | 社会福祉学研究科 | ソフトウェア情報学研究科 | 総合政策研究科

〒020-0693 岩手県滝沢市巣子152-52 ［URL］https://www.iwate-pu.ac.jp ［e-mail］management@ml.iwate-pu.ac.jp
TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001

Copyright © 2024 Iwate Prefectural University. ALL RIGHT RESERVED.
発行:2024年3月31日

CAMPUS TIME

キャンパスアテンダントPresents!

Vol.1／県大のイベントカレンダー

キャンパスアテンダント（略して(CA)）が大学のアレコレを紹介するこのコーナー。今号は、ワクワク楽しいことが目白押しの「イベントカレンダー」をフィーチャー。

4月・入学式

ドキドキの入学式
サークル勧誘もあるよ

授業風景

座学・演習・オンラインなど授業形式は様々です

4月	入学式
5月	
6月	開学記念日
7月	オープンキャンパス 七夕祭　学期末試験
8月	集中講義　夏休み
9月	夏休み
10月	大学祭 鷲風祭
11月	
12月	夢灯り（イルミネーション）　冬休み
1月	学期末試験
2・3月	集中講義 春休み 学位記授与式（卒業式）

お楽しみイベントもたくさん！

静かでオススメ！

勉強場所

メディアセンターの学習スペースは勉強に最適！

7月・オープンキャンパス

模擬講義・展示企画
キャンパスツアーなどを実施

私たちがキャンパスをご案内！

はい、注〜目！

10月・大学祭　鷲風祭

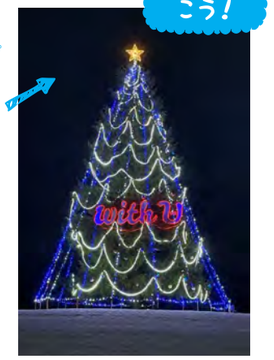
アーティストライブ・模擬店
ステージ発表など盛り沢山！

12月・夢灯り

県大のシンボルツリー
ドイツトウヒの木をライトアップ

こう！

コしが・・・



KENDAI CROSS POINT

滝沢キャンパスで学ぶ学生たちは、約2500名。彼らに「KENDAIの魅力を教えて！」と、直撃インタビュー。学生たちのリアルボイスをお届けします。

「学年や学部の垣根を超えた授業がたくさん！」

基盤科目の授業では、学年や学部を超えた交流が生まれて楽しい！幅広い教育で、豊かな学びを得ることができます。
社会福祉学部・1年／齋藤心陽

「いろんなスポーツが楽しめるよ！」

グラウンド、テニスコート、プール、体育館、ジムなど、運動できる環境が整っています。僕も勉強の合間にジムで身体を鍛えていますよ！
総合政策学部・4年／齋藤拓海

「サークル活動が楽しい！」

70を超えるサークルがあって、様々なことにチャレンジできます！さんさ踊り実行委員会、大学祭実行委員会、CAもオススメだよ！
総合政策学部・2年／髙橋　創

「学食のご飯が美味しくて毎日通ってます♪」

一人暮らしの僕の味方は、学食の日替り定食です。昼と夜、1日2回通って栄養補給。嫌いな野菜も食べられるので助かってます〜。
総合政策学部・4年／佐藤柊人

「大学のキャンパスがめっちゃ広い！」

東京ドーム7.5個分のキャンパス!!最初は構内が迷路のように感じるほど広いけど、今では友達と話しながら歩くのが楽しいです！
総合政策学部・1年／菊池桃花

「岩手の魅力を再発見できるよ！」

地域創造教育プログラムを通して、岩手の課題や魅力を再発見することができ、岩手への愛着が深まります！
ソフトウェア情報学部・1年／阿部夏奈

「地域とのつながりがたくさんある！」

授業やサークル活動で、滝沢市を始めとする多くの地域と関わることができるので、地域貢献をしたい人にはオススメです！
社会福祉学部・4年／中島康介

「大学の図書館がとっても立派!!」

図書館はドーム型で、まるでお城みたい！約29万冊の本を蔵書していて、学習スペースも完備しているので集中したい時にぴったり！
盛岡短期大学部・2年／河村向日葵

「四季の自然を楽しめる！」

たくさんの木々や花々に囲まれているので、四季を感じることができます。冬はシンボルツリーのイルミネーションがキレイですよ！
ソフトウェア情報学部・3年／本田啓人

「自分たちで考えて自分たちでつくる！」

自主性を大事にしてくれるので、行事もサークルも自分たちで企画して作り出すことができます。先生との距離が近いのもいいところ！
宮古短期大学部・2年／賀口遥翔

「ローカルとグローバル、どちらも学べます！」

地域のことも世界のことも学べる場がいろいろあります。国際交流イベントなどで外国人の友だちもできたし、視野が広がりました！
社会福祉学部・1年／小軽米風花

「夢を応援してくれる先生方がたくさんいる！」

授業や就活、資格・採用試験に向けた勉強のサポートが充実！相談しやすい先生ばかりだから、夢に向かって頑張ることができるよ！
看護学部・4年／吉田優美

彬子女王殿下による記念講演の様子

永年勤続表彰の様子

Next step after 25th anniversary

地域に未来に多様なアーチを

1998年に設立された岩手県立大学は、2023年に開学25周年を迎えました。
開学記念日に当たる６月19日には、彬子女王殿下をお迎えし、開学25周年記念式典が執り行われました。
地域に開かれた大学として、様々な地域課題の解決に取り組みながら、
地域の未来を担う若き才能を多数輩出してきた岩手県立大学。
25年の中で育んできた財産を、次のステップへとつなげていけるように。
卒業生のメッセージとともに、大学の未来を考えていきたいと思います。

タグラインを発表する学生の２人
（左：社会福祉学部 圃田咲弥さん、右：ソフトウェア情報学研究科 田尻隼人さん）

学生アトラクションでの津軽三味線演奏（中央：ソフトウェア情報学部 佐藤竜雅さん）

25th ANNIVERSARY

大学での経験を未来につなぐ！

大学との連携を保ちながら自分の成長につなげていく。

盛岡市立病院
がん看護専門看護師・主任看護師
御供（みとも） 優子（ゆうこ） さん
2003年3月　看護学部卒
2009年3月　看護学研究科博士前期課程修了

院内の医療連携支援センターで、患者さんと医師、病院と地域の橋渡し役として、入退院支援や相談活動を担っている御供さん。大学を卒業後、看護師として働く中で、患者さんへの対応力の未熟さを痛感し、「もっと学びを深めて自分にできることを増やしたい」と大学院に進学。仕事と勉強を両立しながら、北東北初の「がん看護専門看護師」になりました。

現在は、院外にもフィールドを広げ、仲間とがん看護の研修会を開催したり、本学大学院の非常勤講師として専門看護師の育成を支えるなど、精力的に活動しています。地域医療をより良くしていくためにも「岩手になくてはならない大学」であり、大学と関わり続けることで「良い影響を与え合い、生涯学び続けることができます」と話してくれました。

岩手を知り、世界とつながるグローバルな視野を持った人材を

1998年4月の開学以来、「地域の大学」を掲げ、実学実践による人材育成や県民のシンクタンクとしての取り組み、地域のニーズを踏まえた研究活動などを進めてきた本学は、これまで16000人を超える人材を輩出。多くの卒業生が、国内外・県内外の地域の中核を担うポジションで活躍しています。

25年の歩みを振り返ると、大きな転換点となったのが2011年に発生した東日本大震災津波。被災地にある大学として、ボランティアや復興関連研究が活発化し、現在もそうした知見や経験を生かして地域の防災力の向上を支援しています。また、「地域社会への貢献」と同等に重要視されている「国際社会への貢献」にも力を入れ、2019年には国連アカデミックインパクトに加盟したほか、副専攻教育で「国際教養教育プログラム」をスタート。こうした学びや活動を新たに展開しながら、グローバルな視野で地域課題に取り組む人材を育成しています。

そして、さらなる未来に向けて、『地域に未来に多様なアーチを』というタグラインを制作。開学25周年記念式典で学生が発表し、節目の門出を飾りました。

大学での学びや数々の経験が今の仕事にも生きている。

高校生の頃からアナウンサーを目指していたという高橋礼子さんは、西和賀町の出身。過疎化・高齢化が進む町の様子から地域福祉に興味を持ち、社会福祉学部に進学しました。大学時代は、地域実習で限界集落の課題解決に取り組んだり、ダブルダッチのサークルに入って練習に熱中。「福祉では、相手の目線に立って考えることの大切さを。ダブルダッチではみんなでアイディアを出し合い、それを形にしていく面白さを学びました。大学での経験が今の仕事に通じることも多いですね」と、高橋さん。

取材相手の思いをすくい取り、どう伝えたら視聴者の心に届けることができるのか。キャスターとして真摯に仕事に向き合う高橋さんの中には、大学時代から大切に培ってきたことが生きています。

岩手めんこいテレビ・アナウンサー

高橋 礼子（たかはし れいこ）さん

2021年3月 社会福祉学部卒

25th ANNIVERSARY

大学での経験を未来につなぐ！

自分がやりたいと思ったことに全力で取り組んでほしい。

岩手県初のプロ棋士である小山怜央さんは、棋士養成機関「奨励会」を経ずにプロになった戦後初めての棋士です。釜石市出身の小山さんは、得意な数学を生かしたいとソフトウェア情報学部に進学。大学時代は、勉強と両立しながら、プロを目指して日々練習を重ねていたと言います。「一番の思い出は、勉強が難しくて苦労したこと。でも、自由にパソコンが使えたり、遅くまで研究に没頭できたり、学べる環境が充実していますよね」と、振り返ります。

何度も挫折を経験しながらも、決して夢を諦めなかった小山さん。「将棋をやめずに、地道に努力を続けたからこそ今があります。学生の皆さんにも、自分がやりたいと思ったことに全力で取り組んでほしいですね」と、メッセージをくれました。

プロ棋士・四段

小山 怜央（こやま れお）さん

2017年3月
ソフトウェア情報学部卒業

25th ANNIVERSARY

大学での経験を未来につなぐ！

- 25th History -

平成10年4月 岩手県立大学開学／西澤潤一学長が就任
盛岡短期大学を岩手県立大学盛岡短期大学部に改称
宮古短期大学を岩手県立大学宮古短期大学部に改称
第1回入学式
平成12年4月 岩手県立大学大学院（ソフトウエア情報学研究科博士前期・後期課程、総合政策研究科博士前期課程）開設
平成14年3月 第1回卒業式
4月 岩手県立大学大学院（看護学研究科博士前期課程、社会福祉学研究科博士前期課程、総合政策研究科博士後期課程）開設
平成16年4月 岩手県立大学大学院（看護学研究科博士後期課程、社会福祉学研究科博士後期課程）開設
平成17年4月 公立大学法人岩手県立大学設立／谷口誠学長が就任
第1期中期目標・中期計画期間スタート
岩手県立大学地域連携研究センター設置
平成18年4月 アイーナキャンパスがオープン
共通教育センター設置
平成20年4月 学生ボランティアセンター設置
平成21年4月 中村慶久学長が就任
5月 滝沢村（現滝沢市）と地域経済分野に関する協定締結
滝沢村（現滝沢市）IPUイノベーションセンター開所
8月 看護学研究科に「がん看護専門看護師教育課程」設置
平成23年4月 第二期中期目標・中期計画期間スタート
災害復興支援センター設置
地域連携棟内に「地域政策研究センター」設置
8月 学生災害ボランティアセンター、いわてGINGA-NETプロジェクト発足。
9月 いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター（i-MOS）設置
平成24年2月 「復興girls*」が社会人基礎力グランプリ2012決勝大会で準大賞を受賞
平成25年4月 高等教育推進センター設置
平成26年3月 ソフトウェア情報学部の「プロジェクト演習」が経済産業省の「社会人基礎力を育成する授業30選」を受賞
4月 共通教育センターを高等教育推進センター基盤教育部として統合
7月 ラーニング・コモンズ「多目的スペース風のモント」開設
平成27年4月 鈴木厚人学長が就任
11月 ゲストハウス開設
平成28年4月 学生サポートサロン（アイブラス）設置
平成29年4月 第三期中期目標・中期計画スタート
平成30年7月 戦略的研究プロジェクト創設
平成31年4月 北いわて連携協力協定を締結
令和元年5月 国連アカデミック・インパクト加盟
令和2年10月 学生ボランティアサークル「風土熱人R」（ふうどねっとアール）が第73回岩手県社会福祉大会で県知事表彰受賞
12月 学生団体「Illumination Project with U」本学のシンボルツリー（ドイツトウヒ）イルミネーションを実施
令和3年4月 教職教育センター設置
10月 鈴木学長が文化功労者選出
令和4年4月 教学FDセンター設置
令和5年2月 県大Voters総務大臣表彰受賞
4月 第四期中期目標・中期計画期間スタート
防災復興支援センター設置

開学25周年
特別番組
地域に 未来に
多様なアーチを
～これまでの25年と
これから～
↓

学生たちがもっと自由に、自分の世界を広げられるように。

法律への興味から総合政策学部で学んだ、藤根卓也さん。卒業後は大学の職員となって、総務・教務・企画など、様々な部署でキャリアを積んできました。その一方で、全国の公立大学職員対象の任意団体「公立大学職員ネットワーク」に参加し、他大学の職員との交流を広げ、現在はネットワークの代表幹事として活動しています。

大学に軸足を置きながらも、常に大学の外の世界にも目を向けてきた活動の根底には、卒業生だからこその思いがあります。「大学内のことだけでなく、外に出て視野を広げることも大切。私自身が学生時代にできなかったからこそ、学生の皆さんには、自分の世界を広げ、俯瞰的に物事を考えられるような環境をつくっていきたいですね」と、藤根さん。卒業生として、職員として、大学のこれからを見据えています。

岩手県立大学職員
藤根（ふじね） 卓也（たくや） さん
2008年３月 総合政策学部卒業

25th ANNIVERSARY
大学での経験を未来につなぐ！

表紙ストーリー

今号の表紙に登場してくれたのは、社会福祉学部の教員で第一期の卒業生でもある岩渕由美先生と、同じく社会福祉学部1年生の小軽米風花さん。二人は社会福祉学部の先輩・後輩であり、教員と学生の関係でもあります。

岩渕先生は「先輩がいなかったので、学祭もサークルも自分たちでゼロから一つずつ作り上げていきました。錚々たる先生たちが揃っていたのですが、学生の自主性を尊重してくれて、自由にやらせてもらいましたね」と、当時を振り返ります。

専門分野を学び始めたばかりという小軽米さんは、社会福祉士を目指して入学。国際交流に関わったり、大学広報を行うキャンパスアテンダントにも参加するなど、積極的に活動を広げ、大学生活を楽しんでいます。

開学から25年という歴史の中で、一期生から26期生へと受け継がれていく大学のスピリットと学びのバトン。そこには、「地域の大学」として学生や教職員が積み重ねてきた教育・研究の地層があり、先頭に立って未来を切り拓く精神が確かな形となって息づいています。

未来に向かって、さらに歩みを進めていく大学について、岩渕先生は期待を込めて、最後にこう締めくくりました。「これまで震災をはじめ、いろいろなことがありましたが、まだまだ通過点に過ぎません。25周年は、大学としての新たな歴史を創るスタート地点だと思います」。

KENDAI in the WORLD

国際社会の貢献を掲げる本学では、2019年から「国連アカデミック・インパクト」に加盟。大学のグローバル化や異文化間の相互理解など、さまざまな取り組みを進めています。

［防災の学びを通した国際交流］

外国人と支援活動を行いながら異なる価値観や文化に触れ、視野を広げる

東日本大震災の復興支援として、岩手県立大学が取り組んでいる国際ボランティアプロジェクト「水ボラ」。2011年９月から、米国オハイオ大学及び中部大学の学生、教職員とともに支援活動をスタートし、2013年からは本庄国際奨学財団の奨学生である全国各地の外国人留学生や日本人大学生なども加わり、毎年継続して支援を行っています。

このプロジェクトは当初、被災した地域住民にボトル入り飲料水を配布したことから「水ボラ」と呼ばれていますが、復興の進捗とともに支援内容も変化。参加した学生たちは被災地の状況や防災の重要性を学びながら、飲料水の配布をきっかけに、住民の皆さんと語り合い、交流の輪を広げています。

第11回目となる2023年度の活動は、9月16日～18日の３日間行われ、本学学生、本庄国際奨学財団の奨学生、中部大学学生、教職員など62名が参加。「復興防災学習プログラム」として、事前に東日本大震災の概要や「水ボラ」の活動の経緯について学び、陸前高田市では津波遺構や仮設住宅の見学、防災に関する研修などを受け、公営住宅でボランティア活動を行いました。

参加した本学の学生たちは、外国人留学生を含む他大学の学生たちとも交流しながら、災害の恐ろしさと防災の大切さを共有。「多国籍の人たちと交流し自分の価値観や常識が変わった」「継続的に震災を学び、支援を続けていく必要がある」など、多くの気づきや学びを得ました。このように異なる文化や価値観に触れ国際人としての自覚を持つことで、学生たちは視野を広げ、自身の成長へとつなげています。

国連アカデミック・インパクト（UNAI）とは？

国連アカデミック・インパクトは、各大学が社会貢献をしながら、国連と世界各国の教育機関の活動を連携させることを目的としたプログラムで、国内でも87機関が加盟（2024年１月現在）。岩手県立大学では、UNAIに関連する様々な取り組みが行われていることから、2019年５月に加盟しました。本学では［原則６：国際市民としての意識向上］［原則８：貧困問題への取組］［原則９：持続可能性（SDGs）の推進］［原則10：異文化間の対話や相互理解の促進］、以上の４つの原則に取り組んでおり、異文化理解のためのイベントやワークショップ、海外留学を活用した社会課題を解決する学習プログラム、海外の大学とのSDGsの課題に関する活動を実施。グローバル社会における各地域や国、世界における大学の社会的役割を追求していきたいと考えています。

本学の2022年度の
国連アカデミック・インパクト
活動報告書はこちら⇒

学生×演劇

みんなの個性を混ぜ合わせながら「自分たちの演劇」を創っていく

コロナ禍の影響でほぼ2年、思い通りに活動ができなかったという「演劇部劇団ちゃねる」。2023年3月の春公演を皮切りに、夏公演、大学祭、もりげき八時の芝居小屋と、精力的に公演を重ねています。

既存の脚本を使う劇団もある中で、「劇団ちゃねる」は脚本もオリジナル、演出も舞台美術もすべて学生たちが手がけています。舞台の上で作品世界を創る者、道具制作や照明、進行などで舞台を支える者と、作品ごとに担う役割は変わりますが、全員に共通しているのは「いいものを創りたい」というひたむきな想いです。

「一つの色が突出するのではなく、みんなの色や個性が混じり合って、一つのものを一緒に創り上げていくのが一番楽しい」と話すのは、代表の高橋優羽さん（総合政策学部3年）。脚本から紡ぎ出されたイメージや世界観を形にしていくプロセスは、苦しくも楽しい時間。「私たちの演劇を見て、自分もやってみたいと思ってくれたら嬉しい」と、創造する喜びを共有できる仲間を募集しています。

DATA

演劇部劇団ちゃねる

大学の創設と同時に創部した、歴史ある演劇サークル。「ちゃねる＝channel」とは、「海峡」や「水路」の意味。流動的な水のように、ジャンルや常識にとらわれない独自の自由なスタイルで活動している。部員数は24名（2023年11月現在）で、3割ほどは経験者だが、それ以外はみんな初心者。毎週2～3日、放課後の18時から21時頃まで練習している。

アーチTVにて紹介中！

Arch TV アーチティービー ～地域に未来に多様なアーチを～

学生×BOOKS

本との出会いをもっと広げ、本を読む楽しさを伝えたい

宮古短期大学部の図書館の一角に、「学生が推薦する“推し本”」を紹介するコーナーが設置されています。これは宮古短期大学部ライブラリーアテンダント（以下MLA）の学生たちが、図書館にある本の中から「自分がおすすめしたい1冊」をピックアップしたものです。

図書館業務をサポートするMLAの活動は、カウンターでの貸出業務が中心ですが、こうした「推し本」以外にも盛岡市内の書店に出向いて図書館に置きたい本を自分たちで選べる「選書ツアー」や、本に出会う楽しみを広げる「本の福袋」のセレクトなど、学生ならではの感性を生かして、様々な活動に取り組んでいます。

もともと本が好きだったり、図書館司書への憧れがあったり、MLAになった理由は様々ですが、「本を読まない人が多い気がするので、いろいろなアプローチから読むきっかけをつくりたい」と、意欲的な学生たち。MLAの活動を通して、多くの人に本の魅力や新たなことを知る楽しさを知ってほしいと願っています。

DATA

宮古短期大学部
ライブラリーアテンダント

学生目線から図書館のサービス向上や利用促進などを図るため、「宮古短期大学部ライブラリーアテンダント」という学生スタッフが図書館業務をサポート。2022年7月からスタートし、15名の学生たち（2023年12月現在）が活動に携わっている。本の貸し出しを担うカウンター業務のほか、定期的な蔵書点検や様々なイベントの企画など、多彩な活動を行っている。

アーチTVにて紹介中！

Arch TV アーチティービー ～地域に未来に多様なアーチを～

Research close-up!

研究クローズアップ

地域のシンクタンクとして、本学では多様な分野でさまざまな教育・研究が行なわれています。その中から注目の研究をご紹介しましょう。

東日本大震災以降の日本全国における津波避難対策に関する研究

総合政策学部
杉安 和也 講師

総合政策学部のサイト

大分県出身。2007年に筑波大学第三学群社会工学類都市計画主専攻を卒業後、同大学大学院に進み、2012年システム情報工学研究科リスク工学専攻博士後期課程修了。同大学院非常勤研究員を経て、2013年東北大学災害科学国際研究所助教。2021年より現職。

［写真右］自治体との連携で実施した避難訓練の様子。「地域に研究を深化させることができるのも、この大学の魅力」と杉安先生。
［写真左］ゼミではハザードマップづくりも指導。「ゼミの配属は3年生から。じっくりと研究を深められるよう、いろんなフィールドに連れていきたい」と話します。

「生きた防災」のあり方を地域と一緒に考えたい

高校時代は建築家に憧れていたという杉安和也先生。建築を学びたいと進学した筑波大学で、都市計画と防災という研究分野に出会います。大学2年生のときに、インド洋大津波（スマトラ沖地震）が発生。その復興状況を調査するチームに加わったことをきっかけに、防災研究の道を歩み始めました。

「私にとって研究は、いろいろな事例を集めて比較すること」と、杉安先生。大学時代は全国の自治体の津波ハザードマップを集め、盛り込まれた情報の違いを調査。大学院修士課程ではインド洋大津波で被災した3カ国の復興プロセス、博士課程ではインドネシア国内の地域別復興状況と、範囲や視点を変えさまざまな「比較」を行いました。東北大学災害科学国際研究所の助教時代には、東日本大震災の被災・復興調査を実施。自治体が行う避難訓練の企画運営支援にも関わりました。

2021年に岩手県立大学に赴任した杉安先生は、地域防災論や自然災害論を担当するほか、防災復興支援センターの副センター長、学生ボランティアセンターのアドバイザーも兼任。「防災には終わりがありません。どのような災害がどの時間帯に、どんな場所で起きるかで取るべき行動や必要なものも変わる。条件をさまざま変えて検証をすることが大切」と、自治体と連携し、慣例的になりがちな日中の避難訓練を夜間に行うなど「生きた防災」を実践。「こうした避難訓練の事例をデータベース化し、他の自治体も参考にできるようにしたい」と話します。

「今の学生は東日本大震災を経験していることもあり、防災への意識や関心が高い。私も彼らからいろいろな気づきをもらっています」と、杉安先生。その一方で、震災後に生まれた中学生から下の世代に、震災の教訓と防災意識をどう継承していくかが重要、と考えているとのこと。「そのためにも、岩手の子どもが楽しく学べる防災教育ツールの開発に取り組む予定です。学生たちの力も借りながら形にしていきたい」と、今後の抱負を語ってくれました。

公共政策とウェルビーイングの定量的な関係分析

宮古短期大学部・経営情報学科
和川 央 准教授

宮古短期大学部のサイト

岩手県出身。東北大学経済学部卒業後、岩手県庁に入庁。県の大学院派遣制度を利用し岩手県立大学総合政策研究科博士前期課程を修了。その後社会人入学で博士後期課程を修了し、2020年から特任准教授として岩手県立大学着任。2023年3月に県庁を退職、同年４月から現職。

［写真右］学会で発表する和川先生。［写真下］研究の成果をまとめた資料。［写真上］紅茶やコーヒーが好きで、研究室にはコーヒー豆や茶葉を数種類常備。「朝はアールグレイティーを飲むのが日課」と笑顔を見せる和川先生。

ウェルビーイングを幸福な社会づくりに活かしたい

「ウェルビーイング」とは、肉体的、精神的、社会的に満たされた「良い状態」を指す概念で、幸福感とも言い換えられます。和川央先生は、このウェルビーイングを政策等に活かせるよう、定量的に分析（数値化）する研究に取り組んでいます。

「日本国憲法第13条にあるとおり、私たちには幸福を追求する権利があります。けれど幸福感は個人の主観なので、そのまま公共の政策に取り入れることは難しい。それを客観的な指標として活用できるよう分析するのが研究のテーマです」と話す、和川先生。もともとは岩手県職員で、県の「大学院派遣制度」に応募し、岩手県立大学総合政策研究科に入学。博士前期課程を修了し県庁に戻った数年後、今度は社会人入学で博士後期課程に進み、研究を続けます。そのようななか出会ったのが、主観を分析するという、経済学の手法でした。

「これまでの経済学では、経済成長を示すGDP（国内総生産）を、人間の幸福を測る代理指標にしていました。しかし近年、GDPと幸福感は必ずしも関連しないことがわかり、心の動きなど主観的な要素を取り入れた行動経済学が注目されるようになりました。その手法を政策分野にも活かすことができるのでは？と考えたのが、この研究に取り組むきっかけです」。

アンケートで主観的幸福感や生活満足度を計測、分析し、幸福を構成する要素を抽出。この手法を使い、「幸福度」を指標にした岩手県総合計画の策定にも関わった和川先生。今後は「東日本大震災の被災地における、ウェルビーイングの変化を分析したい」と考えています。

「被災地で優先すべきこと、必要とされるものは時間とともに変化する。その過程の分析は、今まさに復旧・復興の最中にある他の被災地でも役立つ、と思っています」。

宮古短期大学部では経営統計学や地域政策論の授業を担当。「情報が溢れる時代だからこそ、自分の頭で考え、読み解く力を身につけてほしい」と、先生は話します。

この問題、どう考える？

身の回りで起こっているさまざまな社会問題を、大学の先生たちにご指南いただくこのコーナー。地域のこと、世界のことなど、皆さんも一緒に考えてみましょう！

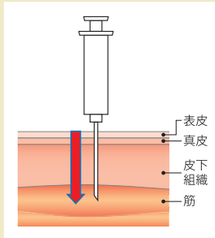
今号のテーマ［注射最前線］

腕に注射されるとき、どんな体勢をとっていますか？昔は「手を腰にあてる」ように言われたものですが、今の筋肉内注射は違うようです（ただし、皮下注射で肘近くに注射される場合は昔と同じままだそう）。あなたが信じている常識も、すでに過去のものかもしれません。
今回は「注射最前線」にフォーカスします。

今号の先生
看護学部
高橋 有里
教授

先生の解説

2020年、COVID-19が世界的に大流行し、その対策としてコロナワクチンの接種が急速に進められました。これは「筋肉内注射」のみ適応のワクチンのため、必ず筋肉内に注射しなければ薬効が保証されません。しかし、日本の医療現場では筋肉内注射の機会が減っていたために、臨床の看護師も経験の浅い人が多く、注射する人員の確保と共に「注射手技」の徹底が課題になりました。



注射には、皮内注射、皮下注射、筋肉内注射、静脈注射などの種類があり、針を刺して2mm程度で留めれば皮内注射になるが、もう少し深く刺すと皮下注射、さらに奥まで針を進めれば筋肉内注射になる。

私は20年ほど前から「筋肉内注射方法」について研究していたことから、問い合わせが増加。個人の技量によるばらつきを減らすには「筋肉内注射専用の針の製造が必要」という私たちの提言が注目され、あるメーカーは新たな針の製造に着手しました。その一方で、これまで看護教育で教えられてきた注射部位とは異なる部位も厚生労働省から紹介され、今までとは異なる新たな部位での注射する深さの検証が必要になり、研究を進めている最中です。

看護の世界では、常に新たな研究が進んでおり、今まで常識とされていたことが常識でなくなることがあります。注射を受ける際には、手を腰にあてる体勢が一般的であったと思いますが、新たなエビデンスにより筋肉内注射の場合には「手を下垂する方が良い」（腰にあてると神経損傷という合併症のリスクが高くなる）ことが明らかになっています。注射を受ける際は、過去の体験に縛られず、看護師の指示に従いましょう。不安に思うことは聞き、十分理解したうえで看護を受けていただきたいと思います。

KENDAI NEWS

岩手県立大学のニュースやイベントなど、旬のトピックスをご紹介します。

令和5年度学長奨励賞授与式を実施

令和6年２月20日、令和5年度学長奨励賞授与式が行われました。
研究活動、課外活動、社会活動の分野で活躍された5名（欠席３名）に学長奨励賞が授与されました。
受賞された皆様、おめでとうございます！

ソフトウェア情報学部　長久保 伊吹
第22回科学技術フォーラム（FiT2023）において、FiTヤングリサーチャー賞、FiT船井ベストペーパー賞を受賞しました。

ソフトウェア情報学研究科　伊藤 太一
国際会議（The 5th International Symposium on Advanced Technologies and Applications in the Internet of Things :ATAIT 2023）において、最優秀学生論文賞を受賞しました。

ソフトウェア情報学研究科　FU KUN
国際会議The 2023 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC2023)に採択され、学会誌に掲載されました。

ソフトウェア情報学研究科　田尻 隼人
ベンチャー企業　滝沢ロボティクスを起業し、ロボットを制作販売することで、研究内容を社会に広めました。また、NPO法人IRCプロジェクトを立ち上げ、地域の子供たちのプログラミング教育に貢献しました。

総合政策研究科　川嶋 陽
修士論文の先行研究レビューを取りまとめた論文が、学会誌「自治体学」に研究ノートとして掲載されました。

大学祭開催

今回は４年ぶりに入場制限等のない通常開催となり、学生の多様な活動の成果を地域の方に広く紹介する機会となりました。

滝沢キャンパス“鷲風祭”

模擬店などの恒例企画のほか、近年誕生したサークル等も発表を行い、会場を盛り上げました。コロナ禍を経ても引き継がれてきたことと、新たな挑戦が融合した２日間でした。

宮古キャンパス“蒼翔祭”

久しぶりの通常開催でしたが、実行委員会を中心に、学生主体で運営できました。皆さまご来場いただき、ありがとうございました。

CEEJA入会

本学では、令和５年５月に「CEEJAと連携する日欧大学及び研究機関の会」へ入会し、アルザス欧州日本学研究所（CEEJA）と連携して、フランス及び欧州において学生の海外研修や学術交流を推進していくこととしています。
令和５年度は、授業科目「国際演習A」にて学生の研修先として初めてフランス・アルザス地方へ赴くこととなり、研修に先立ち、千葉理事長及び担当教員から、CEEJA所長カトリーヌ・トロットマン氏に対し、直接協力要請を行いました。

ホームカミングデー

岩手県立大学同窓会（素心知困の会）では会員相互の交流や在学生の活動支援に係る事業等を行っています。開学25周年を迎えた2023年、同窓会では10月28日(土)に全国で活躍する同窓生とその家族(約320名)が一堂に会し、５年ぶりとなるホームカミングデーを開催しました。岩手を離れて暮らす同窓生には懐かしい盛岡冷麺などの岩手の味を楽しみながら、旧交を温めました。

未来創造基金の報告

大学の教育研究活動をさらに充実させる財源として平成28年度に創設した「岩手県立大学未来創造基金」に、令和5年度は２月末現在で約18件27万円の寄付が寄せられました。寄付をお寄せいただいた皆様に改めて感謝申し上げますとともに、岩手の未来づくりに貢献する教育研究活動をさらに広げていけるよう引き続き御支援をよろしくお願いします。【基金のお問合せ先】岩手県立大学事務局総務室（管財契約グループ）TEL:019-694-2002FAX：019-694-2001
【お申込方法】本学ウェブサイト、書面、電話、FAX又は本学所定の振込取扱票でお申し込み・お振込みください。

岩手県立大学SNS公式アカウント

岩手県立大学の公式アカウントでは、大学の最新情報を発信しています。X（@Iwate__puPR）、Facebook（@IwatePU）でフォローしてください。YouTube（Iwateprefuniversity）はチャンネル登録をお願いします。

アンケートご協力のお願い

岩手県立大学広報誌Archへの御意見・御感想や、広報に関する皆様の御意見をお聞かせください。以下のQRコードにアクセスして、アンケートフォームからご応募ください。